

## 会 議 録

会議の名称	第2回 本庄市公共施設等マネジメント推進審議会部会
開催日時	令和4年9月1日(木) 午前・午後 1時30分から 午前・午後 4時20分まで
開催場所	仁手小学校、本庄東小学校、本庄市役所職員厚生室
出席者	審議会部会：松本部長、田島副部長、山田部会員、 山崎部会員、逸見部会員、飯野部会員、高橋部会員、 林部会員、田中部会員、工藤部会員、早野部会員、 川田部会員 事務局：【教育総務課】笠原参事兼課長、新井副参事、松島主任 【学校教育課】岡芹課長、瀧澤課長補佐、 大澤課長補佐、高柳主査
欠席者	なし
議題 (次第)	1 開会 2 あいさつ 3 議題 仁手小学校及び本庄東小学校の視察について 4 その他 5 閉会
配付資料	・第2回本庄市公共施設等マネジメント推進審議会部会次第
主管課	教育委員会事務局教育総務課

会 議 の 経 過	
発言者	発言内容・決定事項等
	午後1時30分 本庄市役所集合 午後1時50分～2時30分 仁手小学校を視察(示野校長よりあいさつ、1～6年生の授業参観、校内見学、質疑応答) 午後2時40分～3時20分 本庄東小学校を視察(木村校長よりあいさつ、4～6年生の授業参観、校内見学、質疑応答)
事務局 (教育総務課副参事)	本日はお忙しい中、本庄市公共施設等マネジメント推進審議会部会の仁手小学校及び本庄東小学校の視察にご出席を賜り、誠にありがとうございます。 本日はお手元に次第を配付させていただいております。 それでは、視察後で大変お疲れのこととは思いますが、引き続

	<p>き、会議を進めさせていただきます。</p> <p>初めに、本審議会部会の部会長である松本部会長よりごあいさつを頂戴したいと思います。松本部会長よろしく願いいたします。</p>
松本部会長	<p>改めまして皆さんこんにちは。皆さんご多用のところ、先ほどは暑い中、視察にご出席いただきましてありがとうございます。</p> <p>百聞は一見に如かずと言いますが、やはり実際に自分の足でそれぞれの教室に行って、授業の様子を見て回るというのは、大事なことだと思います。先生と子供の距離感、子供の様子、あるいは学校が今後どのように安心安全を確保していけるか等々を、様々な視点で見ることができたのではないかと思います。今日はこの後、この視察に基づいて、皆さんのご意見をいただくということになっておりますので、どうぞよろしく願いしたいと存じます。</p>
事務局 (教育総務課副参事)	<p>松本部会長ありがとうございました。</p> <p>続きまして次第の3番ですが、進行につきまして、松本部会長に議長としてお願いしたいと思います。</p> <p>松本部会長よろしく願いいたします。</p>
議長	<p>それでは着座のままお世話になりたいと思います。</p> <p>3番の議題、仁手小学校及び本庄東小学校の視察についてです。意見交換という時間ですので、皆さんから忌憚のないご意見をいただければと思います。視察で気づいたこと、感じたことを率直に言っていただいて、それを今後の会議にいかしていければと思います。</p>
工藤部会員	<p>仁手小の少人数のところを見て、学習面では少ない人数の方がよく教えてもらえるという印象を受けましたが、人数が少ないと、体験とか他の多くの機会、例えば創意工夫作品などでも人数分しか見られず、人数が多ければいろいろなものを見ることができるので、いい面と不足する面があると感じました。</p> <p>人数は、仁手小の20人くらいがいいのかなと感じ、東小の35人とか39人は結構多いなという印象と、人数が多いと持ち物の管理が大変かなと感じました。</p>
田中部会員	<p>どういう視点で考えていくのかが重要になってくると思います。ある程度費用的にゆとりがあって、1人に先生が1人ずつつくことが可能であれば、少人数は非常にいいですが、おそらく経済的にそういうことができなくなっている。そうすると、仁手小とか少人数の学校は、ある程度規模を縮小していくのが一つの手段として挙がってくるかなというところで、タイミングの一つは建</p>

	て替えだと思いますが、仁手小は建築から何年目ですか。
事務局 (参事兼教育総務課長)	仁手小の校舎は、昭和59年竣工ですので、38年目です。
田中部会員	建て替えのタイミングは、どのくらいですか。
事務局 (参事兼教育総務課長)	仁手小は、昭和56年6月以降の新耐震基準の建物です。学校に限らずRCの建物、鉄筋コンクリートの建物は、いろいろ改修をしていけば、寿命は結構伸びます。維持保全計画上では80年使うとされているので、メンテナンスをして必要な改修をしていけば、長く使えるというものです。
田中部会員	仁手小は、3年生、4年生を合わせて9名しかいないので、球技を行う場合、3年生と4年生を合わせていると先ほど校長先生から伺いました。座学に関してはそれほど差が出ないとすると、体育の球技とか、音楽の合唱や合奏を、人数が少なすぎてできないまま中学校に入ることが、果たしてどうかということは検討していかなければならないと感じました。
林部会員	皆さんと同じ意見で、人数が少ないと勉強面ではいいと思うことがありますが、みんなでやるスポーツとか人間関係は薄くなり、小さい世界しか知らないで育ち、これから先社会人になってどうなるかなと感じました。
早野部会員	本校自体が藤田小で小さいですが、それでも仁手小を拝見させていただいて、もっと小さいと思いました。いろいろな面のお話が出ていますが、体育については、本校でもブロックでやっています。合わせて30人弱なので、合わせないとやはり体育とかに関して言うと、体育の楽しさみたいなものが味わえないと判断して行っているのです。仁手小はなおさらだろうなと思いました。 藤田小は小規模なので、普段から課題だなと思っているのが、やはり人間関係作りの力という面で、みんなとてもいい子たちですけど、これから逆境に耐えて生きていく上でどうなのかなというところは心配しているのです。たくましく育てほしいなと日々思いながら教育しています。
松本部会長	今3人の委員さんたちが出してくれた質問について、校長先生から答えていただきありがとうございました。
川田部会員	金屋小学校ですが、本校も6年生と4年生が2クラスで、あとはすべて1クラスですので、今一番私が感じるのは、やはり1クラスの学級だと人間関係が固まってしまうことです。2学級あればクラス替えがあるので、また新たな人間関係作りができます。もちろん同じ1学級でも、学年が変わってまた新たな取組をすればいいのですが、難しいこともあります。 学習面については、1人の教員が見る人数が少ないので、すごく丁寧に見守ることができます。この点については利点ですが、逆に

	<p>言いますと、目が届きすぎてしまって、子供たちが自主的に学習するという点については、相当注意していかなくてはいけないところですよ。</p> <p>集団的な活動の機会の確保が難しいというお話が先ほどもありましたが、その反面、少ない人数であれば、思い切った活動ができ、ハード的な面でも大人数だと難しいという面もあるので、やはりメリットデメリット両方ともあります。ですので、カリキュラムをしっかりと考えて、子供たちにどういう力をつけさせてあげたいかというところでは、そのメリットをいかして取り組んでいくのがいいのですが、ただあまりにも数が少ない3人の学級は、なかなか難しいところも正直あると思います。</p>
高橋部会員	<p>私自身の小学、中学時代は、1学年の数が500人から600人でマンモスでした。ベビーブームという時代に育ちましたが、実は多すぎれば多い悩みがあって、クラス以外は全然、名前さえわからない。それから一緒に遊びに行こうとしても、きっかけ作りが難しいことはありました。</p> <p>今日、仁手小学校という非常に小規模で見晴らしがいいところを拝見しましたが、この学校で先生方はどういう切り口で子供たちを見ていくのかなというのは、すごく興味がありました。東小学校では他の文化圏の子供たちが一緒になって学習しているというお話を先ほど聞きましたが、今の仁手小の10人とか15人の中に異国の子供たちが入ってくると、雰囲気が変わるのではないかと思います。</p>
飯野部会員	<p>複式学級を解消するために、市で教員を雇って、県の教員と給料の差があるという話を聞きましたが、3年生と4年生、次は4年生と5年生、5年生と6年生と、複式が続くと思います。今日3人しか教えてなくて、何か家庭教師のように見えたのですが、今後も市費で単独で雇っていくのでしょうか。</p>
事務局 (学校教育課長)	<p>事務局よりご説明させていただきます。その予定でございます。複式学級を解消するという事です。今3学年が複式の対象になっているので、もう1学年対象になった場合には、複式学級が2つになる可能性もゼロではないです。将来的にそうなった場合は、やはり保護者の声が強いので、2学年を1クラスにしないで2つのクラスにします。1つのクラスの中に他の学年の子がいる環境よりも、1つのクラスは自分の学年のクラスだという強い思いがありますので、お答えしていきたいと考えています。</p> <p>3人の4年生は、来年5年生で林間学校、6年生で修学旅行という小学校の行事がこの後控えているので、校長と保護者と話をし確認したところ、保護者としては、他の学校と合体するとか他の学年と合体するとかではなくて、3人で行かせたいというご意向</p>

	<p>です。どういうふうにやっていくのか、今後学校としても考えていきたいと校長はお話されていました。女の子が2人、男の子が1人なので、1人の男の子は、林間学校で1人部屋なのかとか、そういうことも今後検討されていくというお話でした。</p>
山崎部会員	<p>今日見させていただいて、やはり人数が少ないところは本当にきめ細かく見てあげられるなど感じました。</p> <p>大きなところでは、やはり子供たちが自立する、自分のことは自分でやり、なおかつ対応を見ながら行動するという、本当にこれから社会の中で生きていく力が身につくのかなと思います。</p> <p>前任校のときに、30人以上いるけれども単級で、6年間ずっと単級でメンバーが変わらない、そういう子たちを3年間見て思ったのは、あと何人か増えれば2クラスになる、そしたら学級編制ができて、その子たちにまた違った刺激を与えられて、違う伸びができるだろうなというのをすごく感じました。今は35人学級になってきていますけれども、35人の対象の学年ではないので35人以上いるとか、35人に足らなくて今33人という微妙なところで、あと何人かで2クラスになり、2クラスになると全く違った学校生活が送れるのではないかと、というのを3年間見てきました。</p> <p>今、南中学校ですが、クラス替えをさせた方がいいなど、クラス替えができる人数がいいなど、校長という立場で見させてもらいました。ただ多いと多いでいろいろあるので、適正規模と言われている2クラスぐらいに分けられるような、そういう人数がいいと感じました。</p>
山田部会員	<p>今日見させていただいた東小は本庄市内の一番大きい学校、仁手小が一番小さい学校、すごく両極端で、実際この間くらいに求めることはあると思います。先ほど田中委員さんがおっしゃった視点をどこに置くかということですね。自分自身もまだわかりませんが、校長先生は単級よりもクラス替えができる環境がいい、あとは子供たちに教えるカリキュラムをどうするかということなのかなと思いました。僕らもPTAの立場でやっていますが、学校の先生たちが、果たしてどういう環境がいいのかというのを、もっといろいろ話をしながら、30名の方が先生は教えやすいのか、もっと人数が少ない方が子供たちに伝えることができるのかというようなことです。新しく本庄市の学校を考えると、そういうところが大切なのかなと思います。</p>
議長	<p>校長先生方に、今のことを聞いてみまじょうか。何人ぐらいが子供のやる気を出せるのか、あるいは教育効果を発揮できるのか、これまでの経験則で結構ですのでお願いします。</p>

早野部会員	昔はずいぶん児童が多かった時代に担任したのですが、今の子供たちが少なくなっている現状で考えると、1学年50人ぐらいがいいと思います。つまり人1クラス25人、30以下のクラス、そうすると人間関係作りもでき、授業でもいろいろ考えが出て、先生方も個に応じた指導ができると個人的に思います。
川田部会員	<p>ちょっと視点が違うかもしれませんが、今日皆さん見ていただいて、お気づきかもしれないですが、教室がすごく狭く感じませんでしたか。実は、机の規格が変わりました。1人の机の規格を大きくしていただいたので、実は私も今の35人ぐらいの学級を担当していたときがありましたが、あんなに狭く感じませんでした。今改めて規格が変わったのを見て、ギュウギュウだなとすごく感じて、東小を見たときにびっくりしたのが、4人4人で机をつけて密になっていると思ったので、机のサイズから人数を考えると20から25人ぐらいが、今の教室に合っている感じがします。早野校長もおっしゃったとおりで、20人を切ると逆に少なくなり過ぎるという感じです。</p> <p>適切な数は、そのときそのときによって、またカリキュラムが変わったり学習の仕方とか工夫したりしていますが、45人だったときから40人になり、40人から35人になって5人ずつ減ってきていますが、やはり35というマックスの数で考えると多いと感じます。だからどれが適切かというのは、検討していかなくてはいけないでしょう。20から25人ぐらいの人数で、1つの班がほしい4人から6人ぐらいでグルーピングができるぐらいがちょうどいいなど、あと教室の規模からそう感じます。</p>
議長	小学校の校長先生から20から30人ぐらい、そして2クラスがいい、それを考えると、文科省で言っている12から18という標準学級数を考えられているなどということが言えると思います。
田島副部会長	<p>皆さんのいろいろな意見、そのとおりだと思います。今日東小学校を見て驚いたのが、狭いなということです。</p> <p>以前、西小学校に行った時は、机の上にアクリル板があったのですが、今日東小はなかったようでしたが、コロナ対策は大丈夫かなとちょっと心配になりました。</p>
議長	<p>最後に私から感想を述べさせていただきます。</p> <p>今日一番大きな東小と一番小規模な仁手小を見ましたが、お互いに良さがありお互いに課題があると思いました。ただその中で、子供たちの視点からすると、やはり子供たちには、いつも自分の目標になるいいものを見せてあげたいというのが私の思いです。つまりたくさんの子供たちがいれば、その中には、特技や高い能力を</p>

	<p>持っている子がいますので、やはりそれが子供の目標になり、そして、それを目指して切磋琢磨していくということです。そういう環境があることが、子供たちを成長させることにつながるだろうと思っています。そこで先生方の指導が入ればなお相乗効果があるわけですが、少ない人数だとやはりいくら先生方の指導がうまく入っても効果は発揮されない、そんな思いで見させてもらいました。</p> <p>そして今回我々に課せられた課題は、この適正規模に関して基本的な考え方を決めていくということになりますから、どこかで折り合いをつけるということになるのでしょうか。その部分を考えていかななくてはならないと思います。だから、今日皆さんから出していただいた率直な意見というのが、実は一番大事になってくると思います。やはり皆さんが今思っていることが将来的に一番大事になり、そのことが地域の皆さんにも納得していただけるのではないかと、ということで子供たち、学校を見ていただきました。</p> <p>さて、一通り皆さんから意見を言っていました。人の意見を聞いてこんなふうにしたというのもあると思うので、追加のご意見いかがでしょうか。</p>
田中部会員	本泉小が秋平小と合併するときに、最後の6年生が確か3人だったと思うのですが、あのときの修学旅行はどういう形だったのでしょうか。
議長	事務局いかがでしょうか。調べてみないとわからないでしょうか。
田中部会員	先ほど仁手小が3人でこれからどうするかということだったので、確か本泉が最後のときに、今後の指針でここが重要ですねというのが意見として出ていたと思います。やり方の一つの形ができてくると思います。
事務局 (学校教育課長)	当時の校長先生にお伺いし、情報提供できると思います。 私は7人の引率をしたことがあります。7人で教員が3人、合計10人で、新幹線で行って、ずっと電車で回ってきました。そういうのに倣うか、それともワゴン車を借り切って行くというイメージもあります。藤田小と一緒にいければですが、保護者は3人でいきたいと言っているのです。
早野部会員	教頭先生からは、来年もしかしたら藤田小の5年生と一緒にどうでしょうと打診が来ていましたが、保護者さんがそう思っていることを今初めて聞きました。
議長	熊谷市に小島小学校というのが利根川を隔てた群馬県側にあり、今は休校になっていますが、その学校の6年生は妻沼小学校と一緒にいっていたようでした。だから地域によって、様々なやり

	<p>方、工夫がされているのですね。</p> <p>本泉小学校のことは、調べておいてください。</p> <p>新たに感じたこと、あるいはさらに疑問に思ったことがありますしたら遠慮なく言っていただければ、また次の機会までに調べてもらっておけるので、他にいかがでしょうか。</p> <p>皆さんの共通認識として、あまりにも人数が少ないのは課題があるというのは感じてもらえたかと思います。また、教室に目一杯というのも心配だという感じがしましたよね。でも、ゆくゆくは、40人から35人になり、35人でマックスになるのは、国で言うと3年後ですね。そうすると教室で1列くらいは少なくなります。</p>
事務局 (学校教育課長)	<p>通常40人で1クラス編成していた時代がありましたが、今35人でクラスを編成するという流れができておまして、小学校3年生までは35人で1クラス編成しております。埼玉県の場合には特例で、4年生も35人で1クラス編成できます。なので、例えば1学年36人だとすると、2クラス作れることになります。逆に35人のマックスだと35人で1クラスなので、人数によってクラスがこのように変わります。それによって教員の数も変わってきます。</p>
議長	<p>本庄東小学校は県負担の教職員数が36人、全部で55人ですから、県費の他に市費の職員がかなり多く入っています。だから学校があるということは、かなりの人件費がかかっています。埼玉県は、校長、教頭、教員、事務職員、養護教諭と規定に合わせてしか配置しませんので、その他の部分は市で配置しなくてはなので、市もかなり負担をしているということになりますね。本庄東小の場合は55人で県職が36人ということだから、市がかなり負担しているということになりますが、仁手小学校はどのくらい市費で出していますか。</p>
事務局 (学校教育課長)	<p>仁手小学校は、市費の支援員が1名、複式解消のための市費の会計年度の講師が1名、教職員定数が11名です。東小学校は、市の会計年度だけで9人入っています。特別支援補助教員さんとか、日本語指導教室もあるので通訳さんも入っています。</p>
議長	<p>一律県からの先生ではない、市で採用している先生もいて、子供たちにとってみればみんな先生で同じですけども、現状は、県費、市費で違いがあると、当然採用のされ方にも違いがあります。それはなかなか表に見えないけれど、こういうところでわかることですね。県は、決まりで学級数に対し教員を何人とするので、この学級数以上の教員を配置することはできません。そこで、市教育委員会が、柔軟に対応し補っているということです。</p>



	<p>先生方のこと、子供のこと、施設のことと大きく分けると3つの話題が出て、保護者の立場が出ていませんが、保護者の気持ちはどうでしょう。小さいところ大きいところの意見は、アンケートを取ってみたいとわからないでしょうか。</p>
工藤部会員	<p>仁手小に区域外が3人いるということは、やはり保護者は、先生から子供に向けて手厚くしてほしいと望んでいるのですね。でも1クラスだと、友達とのトラブルや、順位とかクラスでの位置が決まらずずっと6年間そのままいくので、逃げられるところや変わるところがあるといいと思いますが、とにかく1人1人にもう少し手をかけてもらいたいという希望が強いのでしょうか。</p>
議長	<p>子供の数が少ないので、希望すれば学校の指定を変更できる特例があるのは、本庄市では今、仁手小だけです。でも、保護者が登下校の安全の責任を持つという条件付きですよ。</p> <p>他はよろしいでしょうか。</p> <p>(質問・意見なし)</p> <p>視察の後、疲れたところ大変ありがとうございました。よろしければ、議題については以上とします。ご協力ありがとうございました。</p>
事務局 (教育総務課副参事)	<p>貴重なご意見、大変ありがとうございました。また、議長を務めていただきました松本部長にお礼申し上げます。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、次第の4番「その他」でございます。今後のスケジュールについて事務局からご連絡がございます。</p> <p>まず、1点目といたしまして、本日の会議の会議録の案につきまして、作成が完了次第、部会員の皆様に郵送又はメールにて送付させていただきます。お手数ですが、お手元に届きましたら内容をご確認いただき、記載内容に修正等がございましたら、事務局までご連絡いただきますようお願い申し上げます。</p> <p>2点目といたしまして、次回の部会につきましては、11月21日、月曜日の開催を予定しております。第1回の部会でご審議いただきました「本庄市立小・中学校に関する保護者・教員アンケート」が、明日9月2日に配布されますので、その結果報告及び「本庄市立小・中学校の適正規模及び適正配置の基本的な考え方の案について」を議題とする予定でございます。</p> <p>事務局からの連絡は、以上です。</p> <p>続きまして、次第の5番「閉会」にあたりまして、教育委員会参</p>

	事兼教育総務課長より、ごあいさつを申し上げます。
事務局 (参事兼教育総務課長)	<p>皆さん本日はご多用のところ、第2回の部会にご出席いただきまして誠にありがとうございました。</p> <p>部会員の皆さんには本日、仁手小と東小の学校見学をしていただいたわけでございます。それぞれいろいろな感想をお持ちになったのかなと思うところでございます。</p> <p>先ほど教室が狭く感じたということで、机の話が出たので、私の方からその机の説明をさせていただきたいと思えます。机にはJ I S規格というのがございまして、今までは旧J I S規格とあって、古い規格の小さめの机を市内の小・中学校で使っていました。令和元年度と2年度の2ヶ年で、新しい今の規格の机に全部入れ替えております。サイズとすると、今まで使っていた机より縦横5センチ大きいです。理由としますと1人1台端末があつたり、教材の数が増えたりして、学習する上で机にいろいろなものがあり、手狭になったというのがございます。机が大きくなったため、隣の人との間隔も今までより狭くなっておりますので、教室を見ていただいたときに、狭いという感想をお持ちになったと思っております。</p> <p>部会委員の皆様には、第3回の部会以降、今日の視察、それからアンケートの結果を参考に、将来の本庄市の子供たちのためにどのような教育環境がいいかご議論いただくわけでございます。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>以上をもちまして本日の部会を閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。</p>